

高齢者の医療施設への地理的アクセスの格差 - A difference of the geographical access for the elderly to healthcare facilities -

辻 よしみ¹, 平尾 智広²

¹香川県立保健医療大学, ²香川大学 医療管理学

連絡先: <tsuji@chs.pref.kagawa.jp>

- (1) **動機:** 医療へのアクセスの測定については、医療施設のマップ作成や各施設のカバー率、主要施設からのアクセス測定等の研究が行われている。しかし、それらの測定は、供給者サイドからのアクセスとなっており、住民個々のサイドからのサービス供給といった視点までには至っていない。また高齢社会に向けて、アクセスの格差が、住民の受療行動にどのように影響しているかを明らかにすることは重要なことである。そこで、本研究においては、高齢者の受診機会が多い診療科(整形外科等)を選択し、居住地から医療施設までのアクセスを定量的に算出した。
- (2) **アプローチ:** アクセスを算出するために、徳島県内の4次メッシュに居住する65歳以上人口から、整形外科を標榜している医療施設(診療所及び病院)までの一般道路経由の平均距離および平均時間(車使用)を算出した。
- (3) **意義:** 保健医療情報及び高齢者の居住地からの地理的近接性を定量的に測定し、GISを使用して、

視覚化することは、対面サービスが基本の医療にとって、また高齢社会にむけて、個々の地域で使用可能な資料とするために有用である。

(4) **結果:**

- 高齢者が居住しているメッシュから20分以内にある整形外科医療施設数は市内等においては、5件以上がほとんどであり、最高は52件であった。
- また最寄りの整形外科までの移動時間においても、市内等においては、20分以内にほとんどが移動可能であった。
- 高齢者の多く居住する県西南部においては医療施設配置状況が乏しい状況であった。

(5) **データ:** 医療情報及び診療科情報については、県ホームページ及び県庁からの情報を整理し活用した。

(6) **その他:** 今後は、医療施設情報だけでなく、利用者側の情報(利用状況等)との関連を検討していきたいと考えている。

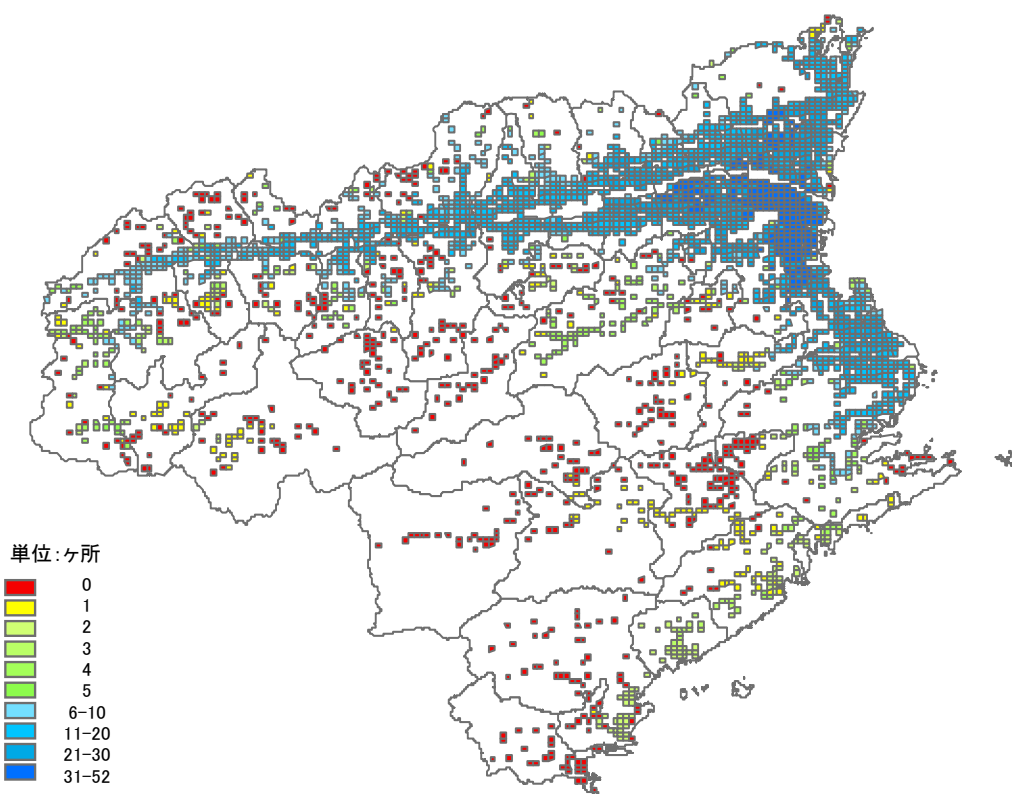


図1: 20分以内にある医療施設数(整形外科)